

土佐茶振興計画(案)に対するパブリックコメントの結果及び回答

- 1 意見募集期間 令和4年2月24日～令和4年3月25日
- 2 意見数 5件 ※趣旨に沿って分類・整理しています。
- 3 ご意見の内容と回答

番号	項目	意見の概要	意見に対する回答
1	栽培管理作業の省力化	レール走行式茶園管理は導入後20年以上経過しており、修理するための部品等もなくなっている。省力化や今後の産地維持のためにも乗用式摘採機の導入への支援をお願いしたい。	1人でも収穫や栽培管理作業ができる自走式茶園管理機の導入を支援しています。茶園管理作業が大幅に省力化できる乗用式摘採機については、農家やJAの皆様のニーズをお聞きしたうえで、補助メニューへの追加を検討します。
2	荒茶品質の向上	樹齢が50年を超える茶園もでてきており、品質の低下が懸念されている。新植、改植、台切り、中切りを行い若返りを図らなければならない。小規模の農家も多く国の事業が利用できないことも考えられる。	新植と改植、台切りは、国の補助事業の面積要件20aに満たない場合は、県単独事業で支援する予定です。特に、収量が元にもどるまでに5年から8年かかる台切りと改植は、実施をためらう生産者も多いことから、若返り効果があり、かつ3年程度で収量が回復する中切りを令和4年度から県単独事業で支援します。
3	担い手の確保	茶生産者の平均年齢は70歳を越えており、このままでは5年10年後には産地がなくなることも危惧され、次代を担う新たな人材の育成が喫緊の課題である。 産地維持のためにも新たな人材が安心して営農活動ができるよう、お茶+〇〇など複合経営の支援等、県、市町村とも連携して担い手の確保に努めていかなければならない。	高齢化等で放棄される茶園を担い手農家に流動化して優良茶園を守ることで、産地の維持を図ります。 県内には、果樹や花木(シキミ、サカキ)などとの複合経営を営んでおられる茶農家がいらっしゃいます。 こういった事例も参考に、各産地の実情に応じた担い手確保のための産地提案書を作成するなど、県、市町村、JA等の関係機関が連携し、地域でくらし稼げる仕組みを支援していきます。

4	販売拡大	<p>荒茶の市場出荷だけでは生産者所得の拡大は望めないのが現状であり、製品茶の独自販売の拡大を行うことで生産者所得の確保に繋がる。</p> <p>荒茶価格が安いことで、肥料等の投入量も少なく品質低下などもみられ悪循環になってきている。</p> <p>営業を強化し、新たな取引先の確保や新たなお茶の消費の提案なども行い、消費拡大に努めることで高品質の茶生産に繋がる。</p>	<p>製品茶の独自販売は、所得向上に繋がる取組でありますので、販路開拓に意欲的な茶生産農家の皆様による県内外での商談会への参加やイベントの開催、魅力ある商品づくり等を県単独事業により、支援していくこととしています。</p> <p>また、土佐茶振興協議会を中心に、まずは地産地消の徹底を図るとともに、販売先の確保及び拡大を推進します。</p>
5	輸出	<p>輸出も検討しているが、商流や残留農薬基準等の課題も多いのが現状。</p> <p>サポート体制を充実していただき、安心して挑戦できるよう支援をお願いしたい。</p>	<p>県では、市町村やジェトロ高知、高知貿易協会によるサポートチームを編成し、輸出先国の基準に適合した生産体制の確立や商流の確保、販路開拓を支援していくこととしています。</p> <p>特に、お茶は既存の商流がないため、アドバイザーによる支援を予定しています。</p>